

「ENJOY JAPANESE KOKUSHU」プロジェクト

1. 農林水産物・食品の輸出促進

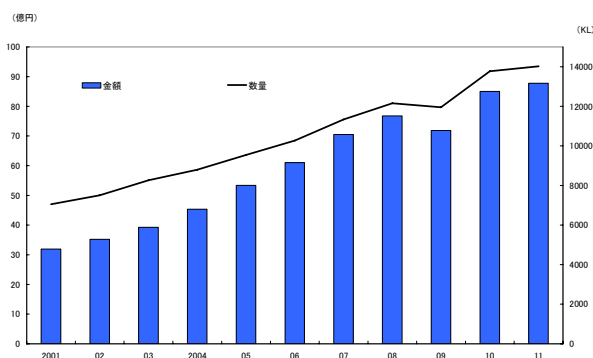
わが国は、農林水産物・食品の輸出促進に取り組んでおり、2020年までに輸出額を1兆円水準にすることを目標としている。農林水産省が、財務省「貿易統計」を基に作成した資料によると、わが国の2011年の農林水産物・食品の輸出総額は、4,511億円(前年比8.3%減)となった。国・地域別順位は、1位香港、2位米国、3位台湾、4位韓国、5位中国。品目別では、水産物が約4割、加工食品が約3割を占めた。加工食品の品目別内訳を見ると、調味料、アルコール飲料、清涼飲料水、菓子などが過半を占める。

今回は、アルコール飲料の中の日本酒の輸出動向を紹介する。

2. 日本酒の輸出動向

海外における日本食ブームを背景に、日本酒の輸出は、2000年代に入ってから増加している。ただし、2008年秋のリーマンショックにより、2009年はいったん減少したものの、2010年に増加に転じ、数量、金額ともに2年連続増加し、2011年は、数量1.4万KL(同1.8%増)、金額88億円(同3.2%増)とともに過去最高を記録した。

図 日本酒の輸出の推移



資料:財務省「貿易統計」

国・地域別順位を見ると、1位米国、2位香港、3位韓国、4位台湾、5位シンガポールとなった。米国向け輸出金額が2位以下と比べ大きくなっているのは、高価な純米酒、純米吟醸酒が多く輸出されたためと見られている。

表 2011年にける輸出先上位10カ国・地域

順位 (前年順位)	国・地域名	金額 (億円)	対前年 伸び率	シェア
1 (1)	米国	32.4	2.2%	36.9%
2 (2)	香港	15.3	21.4%	17.4%
3 (3)	韓国	12.1	3.7%	13.8%
4 (4)	台湾	5.3	4.7%	6.0%
5 (6)	シンガポール	3.3	8.0%	3.8%
6 (10)	ベトナム	2.4	62.0%	2.8%
7 (7)	カナダ	2.2	-2.7%	2.5%
8 (5)	中国	2.1	-41.7%	2.4%
9 (8)	英国	2.0	-1.9%	2.3%
10 (9)	豪州	1.8	17.4%	2.0%
	総輸出	87.8	3.2%	100.0%

資料:財務省「貿易統計」

注:日本酒は、輸出統計品目番号 2206.00-200 の「清酒」

3. 「ENJOY JAPANESE KOKUSHU(國酒を楽しもう)」プロジェクトの発足

日本酒の輸出が順調に伸びている中、わが国は、個々の会社・関係省庁・関係機関等の取り組みの補完として、オールジャパンで官・民が連携して國酒の魅力の認知度の向上と輸出促進に取り組むためのプロジェクトを5月に立ち上げた。併せて、本プロジェクトの推進のために、国家戦略担当大臣への助言組織として、有識者からなる「ENJOY JAPANESE KOKUSHU 推進協議会」が設置され、すでに5月と6月に会合が開催され、検討が進められている。

本プロジェクトは、日本の酒造りが日本らしさの結晶であること、東日本大震災の被災地を含む日本全土に及ぶ日本酒等の蔵元が地域活性化において果たす役割などに着目している。このプロジェクトを通じて、輸出が一層促進され、被災地をはじめとする地域経済の活性化が図られることに期待が集まっている。

また、わが国は、TPP交渉参加に向けて関係国との協議を進めている一方、農業部門での支援策の強化が喫緊の課題になっている。現在、輸出米のビジネスがコメの国内生産増強の一助となっているが、酒造りにはコメは不可欠であり、日本酒の生産量増加が農業再生にも一役買うことにつながるだろう。

(調査グループ 関谷裕介)